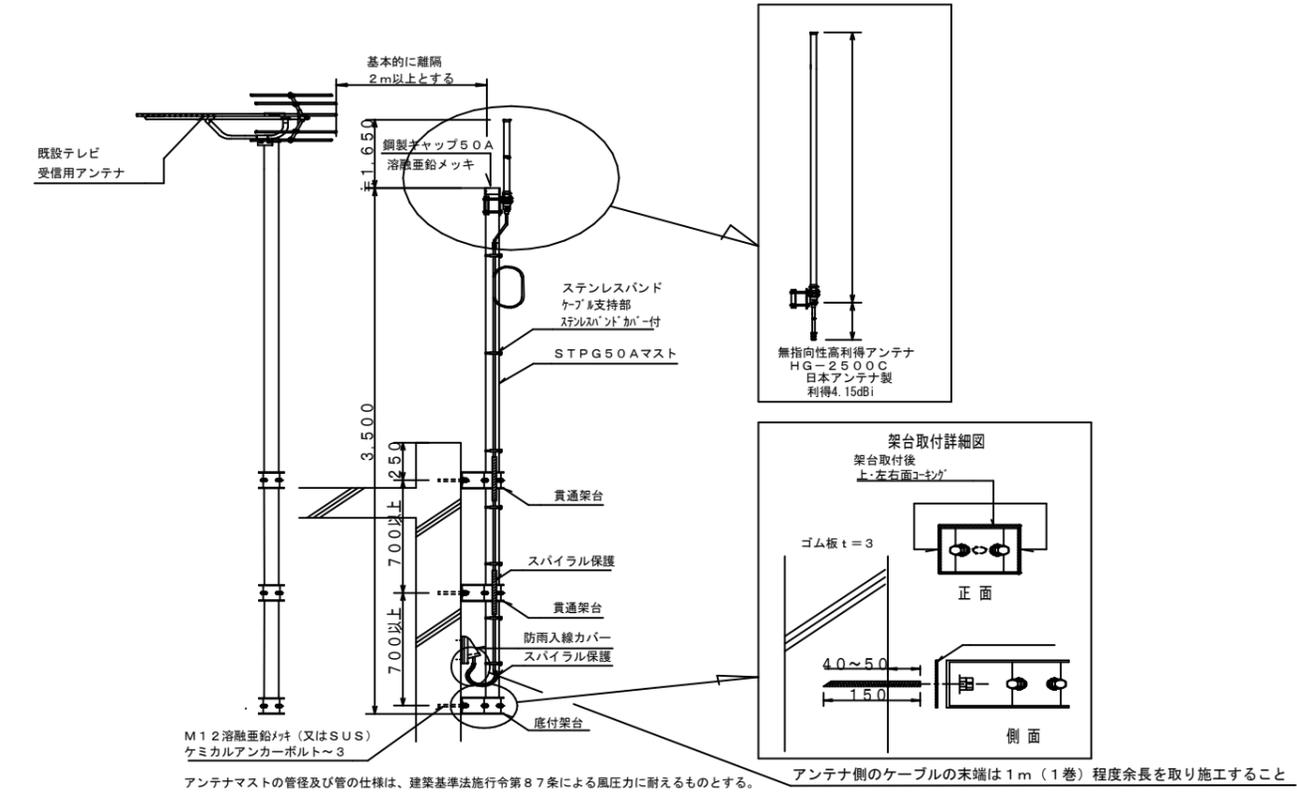


- 特記仕様
- ケーブルの選定について
室内の無線機設置位置からアンテナ取付位置までの距離を算出し、各ケーブル毎の1m当たりの損失量に基づいて算出した合算値がアンテナの利得を超えないケーブルを選定すること。
なお、WF-HF50-4ケーブルを使用する場合は、両端をEM-10D-2Eに変換すること。
 - アンテナの取付について
アンテナの取付に際しては、事前に受信感度レベルの測定を実施し、受信感度が良好な位置に取付すること。
取付時は受信感度が良好だった基地局に向けて取付すること。
 - 試験調査
・V SWR測定
・通信試験
・各基地局からの受信入力レベル測定(設置前と設置後)
・ケーブルロス測定
 - 環境条件
運用可能風速の上限は最大風速32m/s以上とし、瞬間最大風速60m/sで有害な永久変形を生じないこと。
 - 建築物の高さ
高さ20mをこえる建築物には有効に避雷設備を設けなければならないので、注意すること。
 - その他
・無線機器設置、無線機による動作確認は、別途本市で行う。
・アンテナ本体は本市からの支給品とし、5本支給することを想定している。
・無線機を設置する室は、別紙Ⅳ-11に示す総務企画課に3系統及び会議室①または②に2系統設置することを想定しており、詳細の設置場所は設計期間中に本市との協議により決定する。



※各ケーブルの損失量と曲げ半径表

同軸ケーブル種類	1m当たりの損失	ケーブル曲げ半径
WF-HF50-4	0.037dB	100mm以上
EM-10D-FB	0.055dB	52.4mm以上
EM-10D-2E	0.076dB	52.4mm以上
EM-5D-2E	0.14dB	29.2mm以上
RG-55U	0.24dB	20mm以上